

Future Earth Engagement Principles and Practice 日本語版 (案)

資料 9

原文：Future Earth: [Future Earth Engagement Principles and Practice](#), 2016.

参考文書：[長谷川雅世氏作成文書](#)、[翻訳業者による下訳](#)（国環研による）

関連文書：[Glossary](#)（山田による）、下訳からの変更履歴

担当者：長谷川麻子、山田菊子

作業期間：2016-10-04～2017-09-29

注意：

- 本文中の p.x は、原文のページ数である。
- 適当な日本語が見つけれられないものは、原文を表記し、黄色にハイライトした。
- 原文の次の箇所は誤植の可能性あり。
 - 表紙から数えて p.6
 - 下から 8 行目 dentifying on-going and .. → identifying on going and ..
 - 下から 6 行目 IPBES, Sendai, etc. → IPBES, the Sendai Framework for Risk Reduction, etc.
- 翻訳業者による下訳のスポンサーは国環研である。本文書の利用時には、まず国環研に相談すること。

Future Earth エンゲージメントの基本原則と実践

Future Earth: 地球規模の持続可能性研究

p. 2

本文書の目的

本文書は、Future Earth のエンゲージメントへの取組みをまとめたものです。次の項目を網羅しています。

- Future Earth のビジョンの中核としてのエンゲージメントの定義
- エンゲージメントがもたらす恩恵
- エンゲージメントの課題
- エンゲージメントの目標と基本原則
- エンゲージメント実践のための戦略
- エンゲージメントの評価

本文書は、Knowledge-Action Network (KAN) をはじめとする Future Earth のエンゲージメント活動の成果をふまえて更新される、生きた文書です。本文書は、新たな学びを反映しつつ定期的に改訂されます。

Future Earth のビジョンの中核としてのエンゲージメントの定義

Future Earth のビジョンの中核は、社会が直面する持続可能性の課題解決に資する解法志向型の研究を進めるため、社会のパートナーと連携して知識の **co-design** および **co-produce** に取り組むことです。社会のパートナーと研究コミュニティとの間にあるギャップを埋めつつ、広範なパートナーの参画を促すべく、あらゆるレベルで発揮されるこの強い希望そして努力を、Future Earth はエンゲージメントと呼びます。

研究が社会の選択を助け、研究の成果が社会の決断と実践を支え続けるものであるために、つねに社会の関連分野の関係者と対話しながら研究が行われる必要があります。Future Earth は、政策立案者、企業および民間部門の関係者、そして市民社会の実践者が生み出す知見を尊重します。エンゲージメントとは、この対話を組織し実践する新たな方法を見出すとともに、科学において卓越した成果につながる機会を創出し、社会に対しより大きな科学の影響を与えることです。

p. 3

エンゲージメントがもたらす恩恵とは

研究活動の **co-design** や **co-produce** に社会のパートナーが参加することは、より社会に調和した洞察を導きます。そして科学的に堅固であり社会的に実装可能性の高い解決策の迅速な発見につながります。

また、論理的に妥当な科学的エビデンスの提供を目的に、研究者がステークホルダー分析や意思決定プロセスに参加することは、解法志向型の回答という形で持続可能な社会に対し、明確なメッセージと指針をもたらします。エンゲージメントが社会の各セクターにもたらす恩恵を示したのが、次の図です。

* 図

Future Earth のエンゲージメント

企業

持続可能性の課題への解決策を見つけるために必要なツールや情報へのアクセス。サプライチェーンと投資に対するリスク特性。

研究コミュニティ

地球変動科学や理解増進に関する議題の推進と調整。

開発コミュニティ

有望で影響の大きな持続可能な開発研究に参画する機会により、開発ニーズを研究に反映させるための根拠をもった働きかけと支援。

政策コミュニティと政府

持続可能性の課題に対する解決策を見出だすため、(国および地方の) 政策立案者に対する積極的な支援。

市民社会

市民社会の関心事に対する、根拠に基づいた優先順位付けのアドバイスや意見の提供。

資金提供者

影響の大きな地球規模の持続可能性研究に対する、投資の実行と活用。

p. 4

Future Earth のエンゲージメントが抱える課題

地球規模の持続可能性に影響を及ぼすためには、Future Earth の活動の設計、生産、供給のすべてにおいて、鍵となるパートナーのエンゲージメントが必要です。Future Earth の信条は、学際的な科学研究グループを巻き込み、意思決定者や社会と連携させることにあります。こうした研究や社会の関係者のエンゲージメントは、持続可能な開発への転換を加速するのに不可欠であると同時に、文化、

言語、働き方などの、Future Earth が取り組まなくてはならない課題を提起するものでもあります。

Future Earth の成功のためには、資金提供者の **関与と責任 (engagement and commitment)** が不可欠です。今後この支援者に、従来の資金提供者だけでなく研究コミュニティ外の資金提供者が加わります。従来からの資金提供者には科学と研究活動に対する理解がありますが、超学際的 (**co-design** 型) 研究の評価については、まだ検討の余地があります。また、研究コミュニティの外の資金提供者に対し、社会と支援者の双方にとっての研究とその影響をどう伝えるかも、取り組む必要のある課題です。

科学者に加え、科学以外の専門家 (官僚、ビジネス界のリーダー、資金提供者、NGO 等) のエンゲージメントにより、様々な違和感や課題、例えば知的財産権、 **salience of data or knowledge claim**、意思決定や研究成果の時機、 **knowledge claim** の不確実性や科学的、社会的議論などが明らかにになる可能性があります。また、これまでの経験から、 **safeguard** と、明文化された「エンゲージメントのルール」さえあれば、研究プロジェクトの **co-design**、**co-produce**、**co-delivery** による恩恵は、関係者の不安や懸念と同じくらい多岐かつ多岐にわたることがわかっています。

p. 5

Future Earth のエンゲージメントの基本原則

Future Earth の取組みをより強力に進めるため、次の 4 つをエンゲージメントの基本原則とします。

第 1 原則：積極的なエンゲージメントが、Future Earth 活動の必要条件である

私たちは、可能な場合には意見聴取、調査、履行、管理のプロセスを通して、社会のパートナーの積極的なエンゲージメントを勧め、実践します。対話と双方向的な学びを通じて、エンゲージメントと研究はお互いを活性化します。そのプロセスの第一歩が、現在進行中の研究に積極的に関与している人を認識することです。

第 2 原則：エンゲージメントには柔軟性が必要である

エンゲージメント・プロセスには、Future Earth の各活動の状況にふさわしい手順を踏む必要があり

ます。そして様々なステークホルダー毎に様々なエンゲージメントのレベル、様々な形のエンゲージメントが生まれます。

- 研究過程での合意した問題の、研究が政策や意思決定プロセスに根拠を提供する場における、知見の交換を目的とする研究者と社会のパートナー間の対話とエンゲージメント。
- 知識のギャップや研究における優先課題の見極め、持続可能性の課題への効果的な解決策の模索プロセスにおける、研究者と社会のパートナーの積極的な関与を必要とする co-design。
- 新たな知を生み出し、変革を起こすために協働する研究者と社会のパートナーや、社会のパートナーに高度の影響をもたらす shared agency や co-puroduction、co-implementation。
- 地域コミュニティにおける実践を巻き込む場合から、地球規模の政策決定を目標とする場合まで、エンゲージメントの目的や期待する成果が戦略や手法に合致している必要がある中で、エンゲージメントの複数の階級。

コメントの追加 [1]: multiple scales for engagements

第3原則：エンゲージメントの取り組みでは、潜在的な緊張関係と既得権益を認識し対処しなければならない

- 協調的なアプローチの恩恵は無視できないとはいえ、私たちは、異なった視点を統合する課題に対処する必要性があることを認識しています。
- これには、関係するすべての利害関係者の自由を保護することを含む場合があります（例えば、研究者が不当な偏見を避けたり、研究成果の公表のタイミングや政策ニーズの違いを受け入れること）。
- 一貫性を持って利害の争合や対立に同時に対処するためには、エンゲージメントの戦略を透明性をもって co-design する必要があります。

第4原則：エンゲージメントの取り組みは、開放的で透明である必要がある

- エンゲージメント・プロセスは、相互の信頼と尊重の上に成り立ちます。そして、私たちが社会的課題および倫理的配慮の双方に対処する手助けになるような者に対して開放的でなければなりません。
- エンゲージメントでは、可能なかぎり特定の主体を優遇することのない、真の多ステークホルダー・アプローチを用います。
- 私たちはトップダウン型の政策推進者とボトムアップ型の社会推進者間のバランスを奨励します。

- エンゲージメント・プロセスは、参画者の適切なバランスを確保しなければなりません。創出された情報と知見への自由なアクセスおよび公平な参加機会を保障するために、オープン、透明、かつ合法的でなければなりません。

pp. 6-7

実践におけるエンゲージメントのための Future Earth の戦略

Future Earth は、複数の機関によって別個に資金援助され、一つの信条のもとにまとまったプロジェクトを傘下に抱えます。その信条のもとにエンゲージメントの重要性（学際性、co-design、co-production を含む）が認識されています。

Future Earth の研究コミュニティ内の多くの人は既にこのように活動しています。そして委員会と事務局を通し、Future Earth はリーダーシップと事務的なサポートを提供して知識の共有を支援し、時間とともに有機的に発展する旅に参加者を誘うのです。

私たちのアプローチは、

- 1) 戦略レベルでのエンゲージメントを可能にし、
- 2) Future Earth のプロジェクトやネットワーク内でのエンゲージメントを促進し、
- 3) 「科学 - 政策 - 社会インタフェース」を強化するための解決法を開発して促進し、そして研究におけるエンゲージメント、co-design、および co-production の新たな形のプロセスの先駆者となります。

1) 戦略レベルでのエンゲージメントを可能にする

エンゲージメントを支援する Future Earth の活動と戦略には次の要素があります。

- Future Earth Open Network と呼ばれるプラットフォーム。科学者、資金提供者、社会の代表者、faith group など、貢献することを望む人達が参加できます。このプラットフォームでは、それぞれの独自の方法での貢献を行うことが奨励されています。
- トレーニング、優れた実践事例の共有、研究者のエンゲージメント・スキルの強化（人間関係、交渉、問題解決、文化的感受性などの能力を養うこと）などの、エンゲージメントと co-design に関する能力開発。

コメントの追加 [2]: 宗教団体、信仰集団??

- 利用者のニーズと研究への理解の統合、研究へのアクセス確保、リスクの表現、ツールの開発、そしてイノベーションの支援における優れた実践事例へのアクセスを確保すること。
- 活動や成果の告知を支援し、人々の認識を高め、政策を知らしめること。
- 共通認識や研究活動がまだ成熟していない分野、あるいは政策に関連した科学の発展が必要な分野を把握するために行う、社会のパートナーとの戦略的な対話機会の創出を支援すること。

Future Earth がエンゲージメントを支援するために取り組む行動には次のものがあります。

- 資金提供者、篤志家とともに、Future Earth の内部、外部の、国、地域、国際的な持続可能性開発プロジェクトを迎え入れ、団結させること。特に **co-design** 原則のもとに取り組まれるプロジェクトを募り、評価ツールを提供するなどして、篤志家を支援すること。
- Future Earth の活動が、重要な国際的および地域的枠組み、政策フォーラムやイニシアティブにおいて十分認められていることを確認するために、現行および近々発表される政策フォーラム、持続可能開発目標 (SDGs)、国連気候変動に関する政府間パネル (IPCC)、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム (IPBES)、**Sendai** 等の社会における推進役を定義すること。
- 社会のパートナー間のエンゲージメントを促すために、オンライン・コミュニティおよび（訳注：オフラインの）フォーラムを組織すること。例えば学術会議、オンラインセミナー、ワークショップを通じたものなど。

コメントの追加 [3]: 仙台防災枠組 2015-2033, Sendai Framework for Disaster Risk Reduction のこと？

2) プロジェクトおよびネットワークレベルでのエンゲージメントの促進と支援

各イニシアティブ、例えば各 KAN は、適切な地理的スケールで機能する固有のエンゲージメント戦略を練る責任があります。このために、すべての主体がステークホルダーのマッピング、アプローチを明確にするための戦略策定、期待を保証する役割と責任の明確化を行われなければなりません。それぞれの戦略には、パートナーの利益や期待の反映である成功を評価する基準が必要です。このレベルにおいて、境界組織や仲介者の役割も考慮しなければなりません。関係を調整し対立に対処するためには、社会のパートナーの意見を取り上げる中立的な機構が必要なのです。Future Earth の事務局はこの過程を、必要な場合にはパートナーシップ・マネジメントを援用して、支援あるいは主導します。

3) 研究分野における新しい形の co-design と co-creation を開発し、そして成功を促進する

Future Earth が実践を通して学ぶことを確実にするため、エンゲージメント委員会の監督を受け、事務局は次のことを行います。

- エンゲージメントの効果がどれほどの影響を持ったのかを計測する方法を、毎年のベンチマークとして使用する指標とともに開発する。
- イニシアティブ (Future Earth と他との co-design のアプローチ) から学んだことを照合し、ケーススタディのオンライン情報源を構築する。
- エンゲージメントの取り組みを、サイエンス委員会、エンゲージメント委員会の年次会合での開催される専門セッションにおいて、監督する。

レビュー

エンゲージメント委員会とサイエンス委員会がこの文書を監督する。本文書の改訂は、関係する事務局の手続きとの連携のもとに行われるものとする。

[EOF]